

# 建築研究所ニュース



平成 23 年 10 月 4 日

新たにハイチからの研修生を迎えて、10月7日から  
約1年間の国際地震工学研修が開講します。

独立行政法人建築研究所では、毎年、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、通年の「国際地震工学研修」として地震学・地震工学・津波防災に関する研修を国際協力機構（以下「JICA」という。）及び政策研究大学院大学等と協力して行っており、10月7日（金）に JICA 筑波国際センターにおいて、このたび来日したハイチからの初めての研修生 1 名を含む 14 カ国 24 名の研修生を迎えて「第 52 回国際地震工学研修開講式」を行い、1 年間の研修が始まります。

去る 3 月 11 日に発生した東日本大震災（死者行方不明者：約 2 万人）による甚大な地震・津波被害や世界各地で頻発する地震・津波災害等に鑑み、本研修の重要性は日々益々増大しています。特にアジアを中心とする開発の進展が著しい国々では、地震・津波防災対策を早急に築いていくことが必要です。また、昨年 1 月に発生したハイチ地震（死者：約 22 万人）の復興やそれに関する技術協力の重要な柱としての一翼を担うことが期待されます。さらに今回はハイチ隣国のドミニカ共和国からも研修生が 3 名参加します。

建築研究所等での 1 年間の研修終了後、来年 9 月には研修修了生がそれぞれの母国に帰国し、地震防災対策・津波防災対策等の専門家として、災害被害の軽減のため活躍されることが期待されています。今回の研修生を入れると、2 ヶ月程度のコースを含む全ての地震工学研修において、世界 98 カ国から計 1,550 名の研修生の参加を数えることになります。

## <参考1：開講式の日程>

### 第52回国際地震工学研修 開講式

日時：平成23年10月7日（金）14:00～14:30

場所：JICA筑波国際センター

（つくば市高野台3-6 TEL 029-838-1115）

<参考2：研修生の出身国名（14ヶ国）>

アゼルバイジャン、バングラディシュ、中国(2)、ドミニカ共和国(3)、  
エルサルバドル、ハイチ、インドネシア(4)、マケドニア、マレーシア(3)、  
モンゴル、ミャンマー、パキスタン(3)、ペルー、フィリピン（ABC順）  
うち地震学・地震工学コース 19名、津波防災コース 5名

**（内容及び開講式取材の問合せ先）**

独立行政法人建築研究所  
所 属 国際地震工学センター  
管理室長  
氏 名 黒 澤 肇  
電 話 029-879-0678(直通)  
E-mail [kurosawa@kenken.go.jp](mailto:kurosawa@kenken.go.jp)

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。